

第3回～南部編～

ゲストトーク

- ワインツーリズムは地域の日常となり得るコミュニティベースのツーリズムで、コミュニティでお客さんと呼び、そこで得たお金はコミュニティに還元させることによって地域をより良くし、自立的な発展をめざしている。
- イベントは思い描く地域の理想の姿であり、課題はその理想を日常化すること。常に再現性を高めることを意識することが重要。
- ホスト(住民)目線でツーリズムをつくることで、アイデンティティやまちへの愛着を育てることができる。
- ワインツーリズムは、モノ(ワイン)を通じて地域内外の人がコミュニケーションする場をつくっている。



ゲスト／大木貴之さん
LOCALSTANDARD(株)代表取締役

意見交換の主な内容

- 人が来づらい交通環境なので、来る機会をもっとつくりたいといけない。いろいろなコンテンツを定期的につないだツーリズムを開催できたらと考えている。
- 集客だけでなく、体験の価値を高めることで客単価を上げていくことが重要だと感じた。
- コミュニティのデザインや仕組みづくりをしっかり行い、福山にいる人だけで何かをつくっていきたい。
- いろいろな人と知り合う場があれば刺激にもなるし、新しい取組みにもつながっていく。

